

20200202「主イエスのパン種」

「主イエスのパン種」 マルコによる福音書8章11-21節

森島 牧人 牧師

今日の聖書は「ファリサイ派の人々が来て、イエスを試そうとして、天からのしるしを求め、議論をしかけた。」(マルコ8：11)というところから始まります。

主イエスのおられるところへやって来たファリサイ派の人々、彼らは教えを乞うためではなく、主イエスを試そうとしてやって来たのでした。彼らは主イエスがメシア・救世主であるということはどうしても信ずることが出来ず、もしそうであるなら天からのしるしを見せるようにと、主イエスに迫ったのです。それに対して主イエスは深く嘆かれたと聖書にはあります。そして、「どうして、今の時代の者たちはしるしを欲しがらぬのだろう。はっきり言っておく。今の時代の者たちには、決してしるしは与えられない。」(同8：12)と言われ、彼らをそこに残して、向こう岸へ行くため、また舟に乗られたのでした。

その舟の中で、主イエスは弟子たちに「ファリサイ派の人々のパン種とヘロデのパン種によく気をつけなさい。」(同8：15)と戒められます。それは、「ファリサイ派の形式的なパン種、ヘロデの世俗的なパン種には気をつけてるように。そのどちらのパン種も人間を滅ぼすから。」との教えでした。ところが、これを聞いた弟子たちはその意味を理解せず、自分たちが買い忘れたため、舟の上にパンが1つしかないことを言われたのだろうと、言い争いを始めます。それに気づかれた主イエスは「なぜ、パンを持っていないことで議論するのか。まだ、分からないのか。悟らないのか。心がかたくなになっているのか。目があっても見えないのか。耳があっても聞こえないのか。覚えていないのか。わたしが5千人に5つのパンを裂いたとき、集めたパンの屑でいっぱいになった籠は幾つあったか。」と、問いかけの言葉を浴びせかけるように弟子たちに言われます。しるしを求めるファリサイ派の人々に深く失望して悲しまれた主イエスに、追い打ちをかけるような弟子たちの理解の低さ・鈍さでした。「12です」「7つです」と弟子たちはパン屑でいっぱいになった籠の数を正しく答えます。弟子たちはパンの2度の奇跡を見、覚えていたのです。にもかかわらず、奇跡を起こされた主イエスの御心を理解するには至っていなかったのです。

主イエスの厳しい叱責の言葉は、旧約の預言者イザヤへの神の言葉と重なります。何度も神を裏切るイスラエルの民、主イエスはこの時の神の言葉を弟子たちに言われたのでした。神の怒り・叱咤に対し、我が身をもって責任を取るとの覚悟を固められた主イエスと、それを全く理解していない弟子たち……。主のエルサレム入場目前の出来事でした。

聖書には繰り返しが多いのですが、繰り返しは、神の愛によるものでした。神は何度も人間に譲歩し、誠実に対応されて来ました。この誠実・寛容・忍耐という神の愛の中で、私たちは辛うじて生きていけると言えます。そして、その背後にあるのが十字架の出来事です。その出来事に支えられている故に、私たちは何度も赦されて生きることができるのです。

今日の聖書のキーワードは「舟の中に1つのパンがあった」というところです。舟は教会であり、パンは主イエス・キリストです。十字架による赦しの中に生きる私たちの小さな群れを支えるのは1つのパン、すなわち主イエス・キリストなのです。